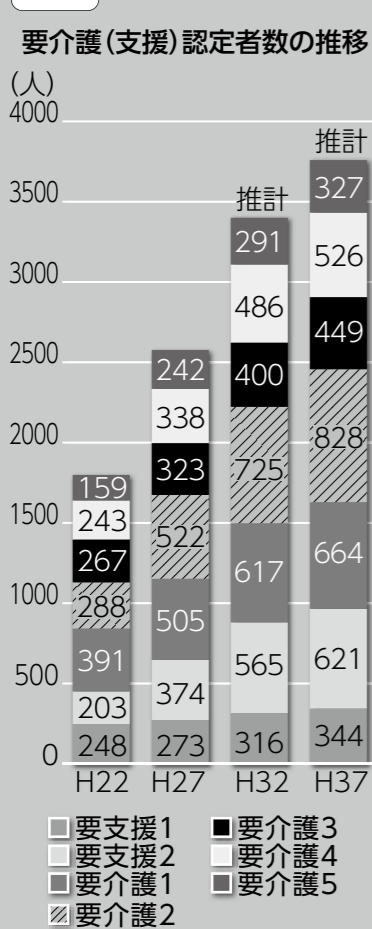
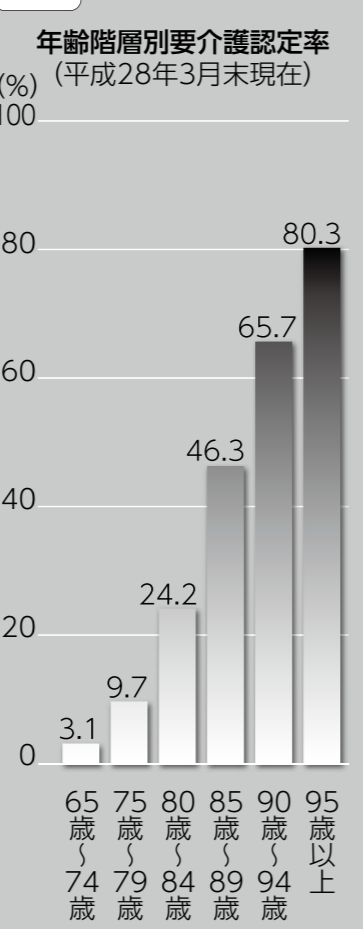


図③ 要介護(支援)認定者数の推移



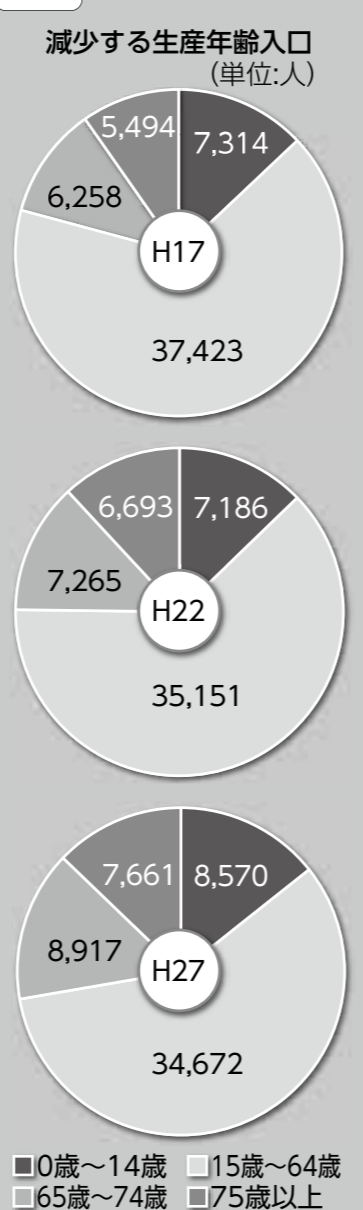
介護保険受給者台帳、第6期介護保険事業計画から

図② 年齢階層別要介護認定率



介護保険受給者台帳、住民基本台帳から

図① 減少する生産年齢人口



住民基本台帳から

●数字で見えてくる現状

福津市の未来

住 み慣れた地域で、いつまでも自分らしく、いきいきと暮らしたい。それは誰もが願う、ごくあたりまえの気持ちです。

しかし今、高齢者の増加と生産年齢人口の減少で、高齢者を支える担い手の減少が問題になっています。平成17年当時、福津市では高齢者一人に対し15歳から64歳までの生産年齢人口は3・2人でした。それがわずか10年後の平成27年には、高齢者一人に対し生産年齢人口は2・1人となっています(図①)。

また、高齢者だけの世帯、単身世帯も年々増加しています。そして、高齢になれば介護が必要な人の割合は増えていきます。福津市では、85歳以上になると半数近くの人が要介護認定を持っている状況です(図②)。

そのため、今のままでは認定者数が大幅に増えていくことが予想されます(図③)。

そんな状況のなか、これからの超高齢社会において、どのような福津市であれば「住み慣れた地域でいつまでも自分らしくいきいきと」暮らすことができるのでしょうか。そのための取り組みを今、始めています。



特集

地域包括ケアシステム

暮らすために いきいきと いつまでも

特集 地域包括ケアシステム

「2025年問題」という言葉を御存じでしょうか。2025年頃の日本で「団塊の世代」の人々が75歳以上となることで起こる諸問題のことです。医療・介護・福祉サービスの需要が高まり、健全な社会保障制度の運営に影響が出ると思われます。福津市では、その2025年を迎える前に、地域包括ケアシステムの構築を目指しています。今月は地域包括ケアシステムの特集です。



地域包括ケアシステムとは

住み慣れた地域で暮らす仕組み

超高齢社会において、誰もが暮らしやすい社会、共に生きる社会の実現に向け、市民の皆さんと取り組み始めました。

地

地域包括ケアシステムとは、住まいを中心に医療・介護・介護予防・生活支援が一体的に提供される体制を確保し、住み慣れた地域で自分らしく人生の最後まで暮らし続けることができる、体制のことです（図④）。

住まいが中心

●住み慣れた地域でいつまでも



三位一体で取り組みました



幸坂由恵さん（原町1区）
原町元気塾スタッフ・小地域福祉会

原町公民館で介護予防の取り組みとして行われている『原町元気塾』のスタッフをしています。8年間続いた市の事業『すっきり脳の健康教室』が終了するときに、参加者の「続けてほしい」という声、スタッフの「続けたい」という気持ち、原町連合会のバックアップがあってその三位一体の取り組みで今年度から再スタートしました。もともと障がい者問題にも興味があったので「共生社会について語りませんか」にも参加をしました。小地域福祉会や学校ボランティアとしても活動しています。買い物支援など、暮らしやすい地域にする取組をしていきたいと思っています。

医

療や介護といった専門職によるサービスの充実を図ることはもちろんですが、介護予防や生活支援といった分野では、地域での助け合いの仕組みづくりが必要不可欠です。

今までの「公助」「共助」といった公の制度や介護保険サービスだけでなく、自ら介護予防に取り組む「自助」、地域においてお互い様で助け合う「互助」が大変重要になってきます。近い将来、生産年齢人口の減少で支える側の担い手が不足してきます。生活上のちょっとした困りごとを、無理のない助け合いで解決できるかどうか、そのことは、その地域に住み続けるため

子どもが遊びに来る介護保険施設に



石川哲也さん（新東区）
小規模多機能施設あかりケアマネジャー

私が働いている「あかり」は、住宅地の中にある民家を改装した介護保険施設です。自宅から通うことも、泊まることもできます。一般住宅のような造りなので、認知症のかたも利用しやすいと思います。介護保険施設ですが、子どもたちや地域のかたにいつでも遊びに来てもらえる場所になりたいと考えています。これからは地域力を上げていくことがとても大切になると思います。介護保険だけではできないことには限界があるからです。昔ながらの助け合いがある地域になるようみんなで取り組みたいです。多様な立場のかたと新たなつながりができる「協議体」に期待しています。

とても大きな要素となります。また地域包括ケアシステムは高齢者だけに限定されたものでも、障がいがあっても、認知症になっても、誰も排除されること

異世代間の交流を考えています



長井和子さん（若木台5区）
傾聴ボランティアほほえみ

傾聴ボランティアの活動のほか、社会福祉協議会の「ふくつのふくし講座」で出会った仲間と地域でコミュニティ食堂を始めようと、場所を検討しているところです。初めはこども食堂を考えていましたが、一人で食事をとる高齢者も多いので、子どもに限らず来ることのできるコミュニティ食堂にしました。いずれは子どもから高齢者までが集える異世代交流の場所にしていくのが夢です。昔ながらのお互いさまの助け合いが大切だと思います。思いを同じくする人にたくさん集まってもらいたいため、少しずつ地域の中でも声かけをしていきたいと思っています。

となく共に暮らす社会、共生社会を目指すものです。この共生社会は、「支える人」「支えられる人」の二分ではなく、お互いに支え、支えられながら、全ての人が自分の役割を持つことができる社会です。地域での助け合いを含むさまざまな活動で役割を持つことはいつまでもいきいきと暮らすことにつながっていきます。

この共生社会を目指し、地域での助け合いの仕組み作りを推進するため、市では昨年12月から「共生社会について語りませんか」と題し、市民のかたとともに地域での助け合いを進めて、月に一度話し合いを進めてきました。

新たに誕生した協議体と生活支援コーディネーター

支え、支えられて暮らしていく。そんな助け合いの仕組みを創っていくための新しい取り組みについて紹介します。

助

「共生社会」を創るために、皆さんが住む地域に、どんな仕組みや助け合いがあれば暮らし

共生のまち

●自分らしくいきいきと

やすいのか、話し合いや情報共有をする場です。

協議体は、多様な主体の対等な連携の場です。特定の団体に属するものではありませんが、市民や事業所、各種団体などが協力・連携していくことで、地域の助け合いがより一層豊かになることが期待できます。

この協議体の準備会として「共生社会について語りませんか」を開催し、市民や事業所、民間企業、民生委員・児童委員、ボランティア団体、社会福祉法人、NPO法人など、さまざまな立場のみなさんが毎回70人ほど参加しました。そこで主にグループでの話し合いと発表を通じて、地域での助け合いについて

考えてきました。

この準備会を経て、10月末には、いよいよ協議体としてスタートします。

地域での助け合いを進めていきたいという熱意のあるかたであれば、役職の有無に関わらず、どなたでも協議体に参加することができます。事前に市高齢者サービス課へ協議体参加届をご提出ください。参加届は高齢者サービス課にあります。多くのかたがたの参加をお待ちしております。

「生活支援コーディネーター」とは、地域での支え合いや助け合いの活動を推進する人で、協議体と協力し合い、ともに活動します。活動のための情報提供や、様々な主体が共働できるような働きかけ、市への提案も行います。

市ではこの生活支援コーディネーターの業務を委託することとし、8月に公募を行いました。10月には委託候補先と契約を行い、11月から業務を開始する予定です。

協

議体も、生活支援コーディネーターも新しい仕組みなので、まだまだ知らないかたが多いのではな

ネットワーク作りに期待しています



協議体に参加します

高橋新一郎さん

セブン-イレブン福岡海岸通り店・福津津屋崎店経営（見守り協定締結事業所）

20年程前はコンビニが店舗すると地域の風紀が乱れるように言われたものでした。しかし今は市との見守り協定も含め、地域から必要とされているように感じています。宅配もしていますので、担当者は高齢のかたの注文のお手伝いもしています。宅配は必ず手渡しですので、安否確認にもなっています。「共生社会について語りませんか」には、営利企業であっても地域の中でどこまでの役割が持てるか、見極めたいという気持ちもあり、参加をしました。協議体では、参加者それぞれの活動を知ること、それによる新たなネットワークづくりに期待しています。

人は支え合って生きています



協議体に参加します

木下多美子さん（大和1区） 福津市在宅介護者ぶどうの会

夫を介護した経験から「在宅介護者ぶどうの会」に入りました。その縁で「共生社会について語りませんか」のことも知りました。人は支え合って生きている、と思います。夫を介護していたとき、人の優しさに触れて涙が出ました。歳を取るということはマイナスばかりではなく、たくさんの経験を積むということでもあります。そして私は人からいつも学ばせてもらっています。地域で支え合うことはとても大切です。私は高齢で、支える立場にはあまりなれないかもしれませんが、支えられる立場からも話ができれば、と思って協議体に参加届を出しました。

まずはこの地域での支え合いについて、また協議体や生活支援コーディネーターについて知

ていただくために、フォーラムを開催します。お誘い合わせの上、ぜひ御参加ください。

みんなで創ろう、支え合いのまち『福津』

～協議体の誕生とこれから～

開催日時 11月19日（土）
12：30 開場 13：00 開演
17：00 終了予定
場所 ふくとぴあ 健康プラザ
プログラム

- 協議体誕生までの歩み
- 他地域の事例発表
- 生活支援コーディネーター紹介
- みんなで考えよう福津のこれから

主催 福津市、
公益財団法人さわやか福祉財団

ぜひ、御参加を！

参加申し込みが必要です

対象者 市内在住者、在勤者
受付方法 電話、ファクス、メールのいずれか

※メールでお申し込みの際は、タイトルを「フォーラム申し込み」とし、市からの返信メールが受信できるよう設定をお願いします。

申し込みに必要な内容

市内在住者 氏名、住所、性別、連絡先電話番号、ファクス番号、託児の有無

市内在勤者 上記に加え、勤務先名、所在地
※申し込み多数の際は、お断りすることがあります。御了承ください。

託児 要予約。生後6か月以上の未就学児。一人300円

受付期限 11月10日（木）

受付、問い合わせ 市高齢者サービス課

☎43・8298 FAX34・3881

E-Mail : koreisha@city.fukutsu.lg.jp

特集

地域包括ケアシステム

